

## 力作ぞろいのランを披露

氷川愛ラン会花の展示会

11月13日・14日、宮原福祉センターにおいて、氷川愛ラン会花の展示会が行われ、80点の出品がありました。成績などは次のとおりです。

【成績・作品名・出品者】  
総合優勝(氷川町長賞)

青花(無名) 勝枝美智子(北野津)

準優勝(氷川町議会議長賞)

白花(白妙) 安東 幸(東上宮)

準優勝(氷川町文化協会賞)

更紗(男爵) 平富 博助(八代市)

特別賞(氷川愛ラン会会長賞)

青花(伊佐栄) 木村 博(早尾北)

特別賞(氷川愛ラン会会長賞)

紅花(日向の誉) 平富 京子(八代市)

金賞、銀賞各10点



▲ざらりと並んだ美しいラン

## 秋空の下で熱戦

秋季ソフトボール大会

11月16日、竜北東小学校において、第8回秋季ソフトボール大会が行われ、町内から5チームの参加がありました。

これは、氷川町ソフトボール協会が主催したもので、健康増進と親睦を深めることを目的としています。

肌寒さを感じる中、予選から熱戦が繰り広げられ、決勝戦は北竜と上

有佐レツズの対決となりました。北竜が初回に2点を先制すると、その後も追加点を挙げ、自慢の強打を發揮。上有佐レツズも最終回に3点を返す粘りを見せましたが、8対3で北竜が逃げ切り、2年ぶりの優勝を果たしました。



▲優勝に喜びの表情を見せる北竜の皆さん

## 「人づくり教育」の推進へ

「次世代」育成推進フォーラム

11月18日、氷川町公民館において、第9回「次世代」育成推進フォーラム in 氷川町が行われ、約150人の参加がありました。

フォーラムでは、町内保育園、小学校の子どもたちによる太鼓の演奏、音楽劇、合唱が発表され、会場を盛り上げてくれました。

また、氷川中学校学校運営協議会委員の村山賢一さん、下鹿島婦人会の皆さんによる学校支援についての実践発表がありました。その後、熊本大学教育学部古賀教授から「地域と共にある学校づくりの考え方・進め方」についての講演があり、参加者は熱心に聞いていました。



▲熱心に講演を聞く参加者

## 知恵を絞って政策提言

全国大学生政策アカデミー

11月22日から24日まで、「氷川流域連携・全国大学生政策アカデミー2014」が行われ、全国の大学生や社会人28人が、氷川流域の各施設を活用して地域を活性化するための、政策提言を競い合いました。

参加者は、氷川町と八代市東陽町、泉町の7つの施設にグループごとに分かれて、聞き取り調査や資料収集などを行いながら政策を練り上げ、最終日の政策発表会では、多くのアイデアに富んだ政策提言が行われました。

審査員と観客による投票の結果、1位には東陽交流センター「せせらぎ」を活用した田舎コン(田舎での合コン)の提言が選ばれました。



▲アイデアに富んだ政策を発表

## 八火先生の故郷を巡って

ドラマロケ地巡りバスツアー

11月23日、昨年10月にTKUテレビドラマ「郷土の偉人シリーズ」で放映された、氷川町出身で電通創始者である「光永星郎」氏のドラマロケ地巡りバスツアーが行われ、町内外から10人の参加がありました。

ロケ地となった、まちづくり酒屋やまちづくり情報銀行を中心に、撮影風景のパネルを使った説明を受けながら、各地を回り、立神峽里地公園では、ドラマにも登場した「火打ち石」を体験しました。

初めは、うまく火を付けることができなかった参加者も、最後は全員が成功し、赤い炎が見えると拍手が沸き起こっていました。



▲ロケ地となったまちづくり酒屋へ

## 若者の知恵でまちづくりを

同志社大学との連携協定調印式

11月24日、氷川町公民館において、氷川町と京都市にある同志社大学政策学部による、連携協定調印式が行われました。

この連携協定は「地域づくり」「教育研究」「人材育成」などの分野で連携するもので、同大学は平成18年以降、氷川町のまちづくりに深く関わっており、町の文化、歴史、特性などを理解しておられます。

この連携協定を結ぶことにより、地域学生、行政が手を取り、よりよいアイデアを町の政策に活かし、地域の活性化につながることを期待されます。



▲連携協定を結んだ同志社大の今川晃政策学部長(右)

## 発想の転換で被害を防ぐ

鳥獣被害防止講演会

11月28日、氷川町文化センターにおいて、鳥獣被害防止講演会(氷川町鳥獣被害対策協議会主催)が開催され、猟友会氷川支部員をはじめ約50人の参加がありました。

講演会では、農林水産省農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーの須永重夫氏が「鳥獣による農作物への被害防止について」と題して講演され、参加者らは、熱心に聞き入り、講演後には、活発な意見交換も行われました。

永田富弘猟友会氷川支部長(中大野)は「わなの周囲を常にきれいにするなど、発想の転換を頭に入れて被害防止に取り組む」と感想を述べられました。



▲講演する須永重夫氏

## 肥大も良く良好な出来栄

特産晩白柚出荷開始

11月29日、吉野選果場において、氷川町特産の晩白柚(ハウス)の選果が始まり、爽やかな匂いが漂う中、一つ一つ丁寧に選別、箱詰めが行われました。氷川町では、24戸が5、6年で栽培。約100トの出荷が見込まれており、箱詰めされた晩白柚は、九州管内をはじめ、関東、関西方面へ3月上旬ごろまで出荷されます。

氷川柑橘部会の久保田時雄副部長(笹尾)に話を聞くと、「今年は大風の被害も無く玉太りも良好。糖度・酸度のバランスも良く贈答用としてもお勧めです」と話されました。



▲色、形など規格ごとに選別